

# やまゆり

学校だより

令和5年10月30日  
54号  
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」  
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行するー  
校内研究重点 「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する生徒を育成する」

学校教育目標重点 「PTA・保護者との連携」

## 第55回 日本PTA関東ブロック研究大会 千葉大会で発表しました

10月28日(土)に第55回日本PTA関東ブロック研究大会が千葉県千葉市で行われました。この大会に、山梨県PTA協議会から本校PTAが県代表として依頼され、校長の杉本が本校のPTAの取り組みを発表しました。

千葉県教育庁東葛飾教育事務所の「柳澤」指導主事から、今後のPTAの在り方や学校との連携による多くの示唆を得る発表として評価されました。

具体的には、「PTA」の組織の中で教職員と保護者の役割の分担を自覚し、まず教職員でなければできない教育課題に対して全教職員が生徒の個人と集団の分析をし、いじめや不登校等の教育課題を改善する取り組みをしていることを成果として評価して頂きました。

また、生徒と教職員で創り上げた安定を基盤にPTA活動で、「キャリア教育」や「いじめ防止活動」、「安全体制強化」、「制服の変更」等を行い、生徒の命や人権等に根ざしたPTA活動を行っている点はとても先進的であり、今後の他校のPTA活動の参考になると講評して頂きました。

パネルディスカッションでは、本校のいじめ対応の早期発見に関して質問があり、以下のように答えました。

- 1 毎日のフォーサイトのノートに困ったことや悩み事を顔のマークのチェックで表現出来る。
- 2 月2回の「きずなの日」の相談日には、全職員を対象に相談したい教職員を選択できる。
- 3 年3回のWEBQU検査、約月1回の生活アンケート等による悩み事相談。
- 4 ICT端末を活用し、24時間、365日悩みを相談できるシステムの構築。
- 5 SC(スクールカウンセラー)、SSW(スクール・ソーシャルワーカー)、児童相談所等、住民健康課の専門家の相談体制と連携。
- 6 保護者との相談体制等を説明しました。

「いじめや不登校は、現在の教育課題の最優先事項ですが、ここまでの対応は本当に素晴らし

い。相原市でも、「いじめ」の重大事案が新聞報道され、その対策に市を挙げて取り組んでいる。道志中学校の事例を、教育員会とも相談して取り入れていきたい。」と話して下さった校長先生もいらっしやいました。

第3分科会では、他に千葉県「流山市立南流山小学校PTA」(全校児童数1500名以上)の「ラインを活用したPTA活動」や、相模原市緑区の「中野中学校PTA」の「教職員とPTAが一丸となって学校を支え、発展させようとしている取り組み」の発表がありました。

第3分科会だけでも、関東甲信越から約300名の方々が参加していました。大規模校のPTA役員さんが多く流山南小学校への質問が多かったです。しかし、教育の原点として、令和4年と5年のPTA役員さんが協働し、「荒れ」のある中学校を建て直し、ギガスクールの文部科学省の指定校になって努力している現在までの取り組みを、生徒の制服を着て学校の管理職と熱演した中野中学校のPTA役員の方々の活動には心打たれました。

山梨県PTA協議会からも、多くの役員やPTA会長さん方が参加し、本校の発表を支えて下さいました。心より感謝したいと思います。

生徒の主体的な活動とPTA役員さん、保護者の皆様、また、地域の方々や本校に勤務した多くの教職員によって山梨県代表として発表の機会を得たことを忘れず努力していきたいと思ひます。今後もよろしくお願い致します。

千葉市のJR千葉駅



道志中PTAの発表

モノレール 海拔200m

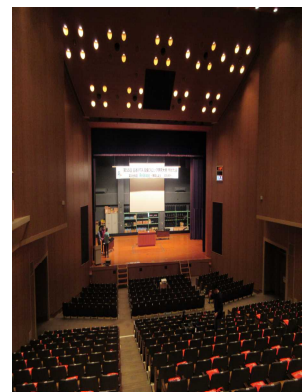


流山南小 ラインを活用した活動

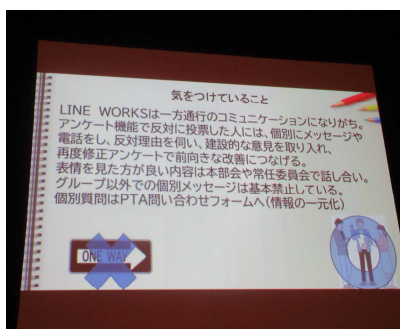
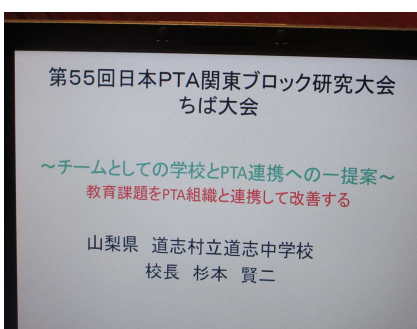
会場の千葉県教育会館



約300名参加



中野中学校 PTA役員さん熱演



学校教育目標重点 「居心地良く、やる気のある学級・学校づくり」

## 第74回 全日本中学校長会 研究協議会大分大会に参加しました

10月25日(水)～27日(金)まで全日本中学校長会研究協議会大分大会に参加しました。全国から中学校長の代表が1,800名以上集まり、「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」を研究主題に3日間、大会運営や研究協議をしました。

分科会は以下の8つに分かれて、それぞれの地区で担当して研究協議をしました。

- 1 「カリキュラム・マネジメント」の推進(担当 九州地区)
- 2 「主体的・対話的で深い学びの実現」(担当 四国地区) ※杉本はこの分科会に参加
- 3 よりよく生きようとする意思や能力を育む道德教育の充実(担当 東海・北陸地区)
- 4 健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実(担当 東北地区)
- 5 社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実(担当 関東・甲信越地区)
- 6 自他を敬愛し、他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する生徒指導の充実(担当 中国地区)
- 7 多様化した学校教育課題に対応できる教員の育成(担当 北海道地区)
- 8 学校と地域の連携・協働による「チーム学校」の実現(担当 近畿地区)

全体会では、文部科学省の「安彦」大臣官房審議官から「当面する初等中等教育上の諸課題」について説明を受けました。特に、今後の教育の背景となる少子高齢化、グローバル化、生産年齢人口の減少等による課題に対応するための教育について時間をかけて説明がありました。

この貴重な学びを本校の教育に生かしていきたいと思えます。

### 持続可能な社会の創り手の育成

- 将来の予測が困難な時代に、未来に向けて自らが社会の創り手となり、持続可能な社会を維持・発展させていく人材を育てる。※本校の現状の取り組み

※一人一人が自分の力を発揮出来る居心地良く、やる気のある学級・学校づくり

※単元を貫く課題解決学習による自分の考えを知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力を生かして学ぶ、個別最適な学びと協働的な学びの実現。

※15の提言・若鮎祭での一人一人が持続可能な道志村のためにできることを発表し、新たな考えを創造する学習活動。

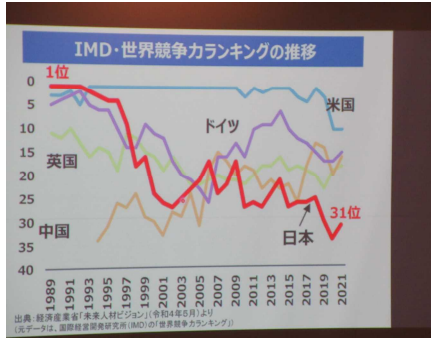
- 主体性、リーダーシップ、創造力、課題設定、解決能力、論理的思考力、チームワークなどを備えた人材の育成

※上記の力の向上は、10月18日の公開研究会で発表し評価を得た。今後さらに育成する。

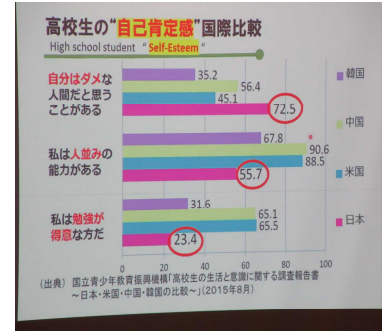
全体会会場



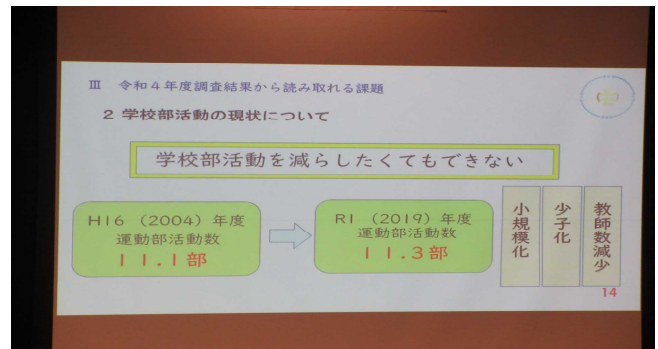
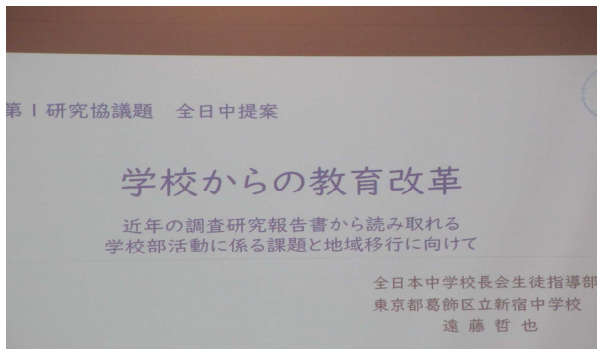
日本の世界競争ランキング31位



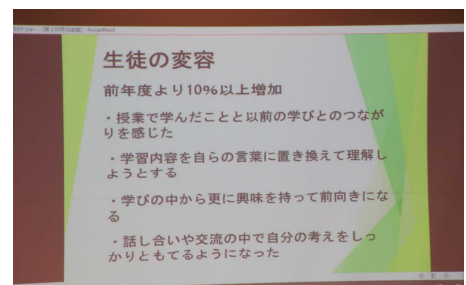
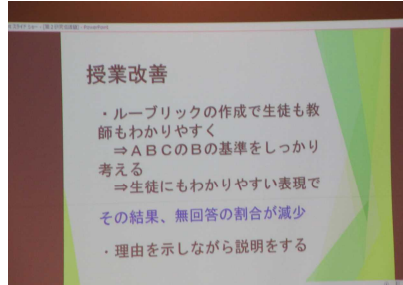
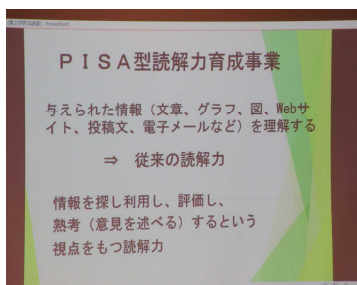
高校生の自己肯定感の低さ



全体会: 部活動の地域移行に関する調査報告 生徒数減でも部活動数を減らせず負担増  
 ※ 文科の指針では、部活動指導は教職員がすべき仕事の中に入っていないのが現状



全体会 京都府宇治市立 広野中学校 PISA型読解力育成事業を通して見えてきたもの



第2分科会 主体的・対話的で深い学びの実現

杉本: 実現には安定と活性化が必要と発言



全校生徒9名 徳島県三野中学校 高知県香南中学校 単元を貫く課題解決学習は本校と同じ

